

キヤリア教育新聞

No.12

2026年1月
発行

共創共学
プラットフォーム
(塩尻市教育委員会委託事業)

企業見学〜小学校高学年生の取組

去る十二月五日（金）、塩尻市立塩尻西小学校六年二組（担任・中野邦彦教諭、児童数二三名）は、学校に隣接するニデックプレジジョン株式会社塩尻事業所（所長・原義明氏）にて企業見学を実施した。

実施のきっかけは、児童が抱いた「あの工場では何を作っていて、どのような人たちが働いているのか」という素朴な疑問である。同社ではコロナ禍以前、他校の見学を受け入れていたものの、近年は途絶えていた。事業所周辺の清掃活動などを通じて同校の児童と挨拶を交わす機会があったが、さらに深い交流をもちたいという意向もあり、双方の希望が合致して今回の見学が実現した。

学校と事業所との事前打ち合わせでは、「見学して終わり」にせず、探究的な学びに繋げるための工夫が凝らされた。事前学習では、まず同社が手掛けるFA（生産工程の自動化機器）のうち、プラスチック包装をフィルム包装に代替する機器に着目。児童は「日常の製品をどのようにフィルム包装化すれば環境負荷を低減できるか」という提案を検討したほか、働く人の思いを引き出すためのインタビュー内容を考案した。

当日は約二時間にわたり製造工程を見学した。各工程には説明パネルが用意され、担当者が丁寧に解説。特に、出荷直前のFAを実動させる場面では、児童たちは引き込まれるように見入っていた。



見学後の社員との交流会では、「どのような思いで仕事をしているか」という問いに対し、社員からは「自分の手掛けた機器が滞りなく動くことを第一に考えている。不備があれば大きな影響が出てしまうため」といった回答があり、児童は働く大人の責任感に直接触れることができた。今後、六年二組では事後学習として学んだ内容を壁新聞にまとめ、グループごとに発表を行う。二月の保護者参観日には、事業所関係者を招いての発表会も予定されている。

企業見学の感想



児童の声

ニデックプレジジョンでは、半導体を作る機械とか、いろいろなものを作っているのがわかりました。生活に欠かせないものを作っているのはすごいと思いました。



塩尻西小学校
中野先生

ニデックプレジジョンが近くにありながらも、どんな会社で、どんな仕事をしているのか知りたいと学習を始めました。実際にお仕事を見たり、働く方々のお話を聞いたりすることで、子どもたちの視野が広がったのではないかと思います。

赤井氏講演要旨【現状把握編3】

幸福と自己決定について

東京都医学総合研究所の2020年の発表によると、思春期に形成された価値意識が、高齢期の人生満足度にどのような影響を与えるかを予測できることが明らかになった。

具体的には、「金銭や安定した地位」を重視する外発的価値意識と、「興味や好奇心」を重視する内発的価値意識の影響を調査している。自己コントロール力が高い層では、どちらの価値意識を持っていても将来の人生満足度に大きな差はないが、自己コントロール力が低い層では、外発的価値意識を強く持っていた人の将来的な満足度が顕著に低くなること示唆されている。

この結果から、若者に対して経済的成功や安定のみを強調するのではなく、個々の興味や好奇心を育む教育環境を整えることが、活力ある超高齢社会の実現に向けた重要な施策であると考えられる。

◆お問い合わせ

共創共学プラットフォーム事務局（NPO法人MEGRU）
塩尻市教育委員会事務局学校教育課（0263-52-0280 内線：3112）